

津島市都市計画マスタープラン等策定委員会（第7回）議事録

1. 日時 : 令和4年1月19日（水）午前10時00分～午前11時30分
2. 場所 : 津島市役所4階大会議室（WEB会議併用方式）
3. 出席委員 : 9名、オブザーバー 3名
4. 事務局 : 日比市長、高林建設産業部長、武田参事
角田達哉課長、松尾達也補佐、志知昌人主査、加藤良介主査

5. 議事内容 :

- (1) パブリックコメントの結果について
- (2) 今後の予定について

6. 議事概要 :

(1) パブリックコメントの結果について

委員 : ・資料1の1ページ、番号1に対する市の考え方について、学校の統廃合の予定はないとのことだが、たとえ統廃合となったとしても、小学校施設は各コミュニティの核として残していく考えを基本としているため、施設の活用についての説明を追加した方が良い。

・3ページの番号3に対する市の考え方について、市街化調整区域内の既存集落地は何もしないという印象を受ける。都市計画マスタープランでは地域の核として残していくことが示されている。同様の記述が必要ではないか。

・5ページの番号6に対する市の考え方について、質問に対する直接的な回答になっていない。青塚駅周辺を市街化区域に編入することと、市街化調整区域のまま地区計画を定めることは違う。なぜ地区計画なのか説明が必要ではないか。

・7ページの番号2に対する市の考え方について、来年度以降に居住誘導区域と防災指針を検討するにあたり、それに伴う都市機能誘導区域や都市機能誘導施設に関連する変更が生じた場合は修正するのか。

事務局 : ・1ページの番号1について、具体的な施設の活用についての説明を追加・修正する。

・3ページの番号3について、市街化調整区域内の既存集落地について、都市計画マスタープランの視点を追加する。

・5ページの番号6について、青塚駅周辺を市街化区域に編入してしまうと駅周辺の農地が宅地化されてしまうため、地区計画制度を活用しながら農地を維持しつつ、居住環境を整えることを目指すことを踏まえた表現に修正する。

・7ページの番号2について、来年度から居住誘導区域と防災指針を進めていくことになるが、都市機能誘導区域や都市機能誘導施設についても必要に応じて見直し修正する。

委員 : パブリックコメントの回答は公開されるのか。市としての回答という理解で良いか。

- 事務局 : 市の回答として津島市ホームページで公開する。
- 委員 : パブリックコメントの意見について、もしも多くの津島市民がこの意見のように感じていたら残念である。津島市の魅力を津島市民がシビックプライドとして十分に認識をする必要がある。津島市には津島神社や天王祭など都市としての歴史がある。それを強みとしてもっと情報発信をする必要があるのではないか。
- 長久手市は立地適正化計画を策定していないが、都市計画マスタープランにおいてコンパクト・プラス・ネットワークについて、より市民とともにまちをつくっていくような内容を強調しているイメージがある。
- 委員 : 歴史が強みではなく逃げ道になっていないか。歴史を強みとする気持ちが伝わりにくい。まちづくりとともに人づくりもしていかないと情報発信も難しい。行政としての本気度はどの程度なのか。
- 事務局 : 行政は立場上受け身になってしまうが、活発なまちは行政から積極的に動いている。能動的に動くことが計画実行の近道だとの考えから、都市計画マスタープランや立地適正化計画では、行政から積極的に踏み込んでいくという点をアピールし展開させていただいた。来年度から具体的に実行に移すことを想定し、市民に積極的にアピールしていきたい。
- 委員 : シビックプライドについて、津島神社と天王祭以外は目立ったものが無い。自分が直接関わらないものを自慢できるものにするのは難しい。市民参加で市を作っていくという気持ちが必要ではないか。
- 津島市は海拔ゼロメートル地帯ということを逆手に取り、防災という視点を活用して市民活動や行政との連携、コミュニティ形成のきっかけができれば良いと思う。
- 委員 : 強みは強みとして伸ばし、弱みも強みに活かすという発想は良い。防災を視点とした市民活動等について情報があれば教えて欲しい。
- 事務局 : 神社と祭りだけでなく自然や安全、交通、コミュニティの繋がりも活かすことを考えないといけない。自助、共助、公助に結びつくような個別の計画も、デジタル技術を駆使しながら楽しく分かりやすく取り組めるよう、来年度以降調整したい。
- 委員長 : 地域の人々の活発な活動はすぐに情報発信され日本全体から着目され、そこに人が集まってくる。そのような活動が広がっていけば良い。
- 今回のパブリックコメントの結果については、ご意見をいただいたように修正していただく。ただし、修正の内容については事務局にお任せしたい。本日は最後の策定委員会となり、この立地適正化計画案は計画として市から公表されることになる。皆様からたくさんのご意見をいただいた結果、このような素晴らしい計画となった。来年度から色々な形でまちが変わっていくきっかけになりうるのではないか。最後に皆様からコメントをいただきたい。
- 委員 : 皆様と共にこのような素晴らしい計画ができたことをうれしく思う。計画を実行するにあたり特に初年度の動きが非常に大事だと思う。我々に協力できることは努力した

い。

委員 : 大変立派な計画ができたと思う。計画の実行段階の計画や事業、知識を作っていくことが必要になると思う。行政の規模が大きくなるほど計画と実行が離れてしまい、計画の主旨が徹底されない部分も出てくると思う。しっかりと初年度から対応することが重要である。バランスよく進めることも大切だが、津島市の象徴として駅周辺などを目に見える形に変えていかないと市民の意識も高まっていかない。市民参加がないと良いまちにならない。事務局にはしっかりと取り組んでいただきたい。

委員 : 立地適正化計画は計画期間が2040年となっているが、2040年には人口の40%以上が高齢者となってしまうことがほぼ確定である。令和4年以降に居住誘導区域を策定するが、居住のあり方は時代と共に変化していくため、その変化を補うような対策も盛り込めれば市民も安心するのではないかと思う。

委員 : 立地適正化計画の策定にあたり、格別のご理解をいただきありがたく思っている。公共交通を担う事業者として、長期的な観点で市民の需要に沿った公共交通機関となるよう考えていく。津島駅に関しても、津島市の玄関口として活気があり利用しやすい駅となるよう協力したい。現在、新型コロナウイルス感染症の影響により鉄道利用が減少しているが、安心してご利用いただけるよう輸送の使命を果たしていく考えでいる。引き続きご指導、ご鞭撻のほどをお願いしたい。

委員 : 立地適正化計画の54ページ(3)誘導施策の実施の1番目に「市民協働・官民連携によるエリアマネジメントの実施」が記載されていることを大変うれしく思う。10月に駅前で社会実験をさせていただいたが、市民や行政、交通事業者など多様な主体と将来像を共有しながら公共空間のあり方を実験できたのは良かった。市民や地元の方々、市役所からもまちづくりについて前向きな意見を多くいただいた。津島市に愛着を持っている市民は多いと思う。そのような人たちと共に都市計画マスタープラン、立地適正化計画に沿ったまちづくりを進めていければと思う。

委員 : このような機会をいただき、大変勉強になった。駅前の社会実験の様子を見て、津島市は「まず実行する」という姿勢を発信するという強いモチベーションを持っていると感じた。名古屋駅から近い農村地帯としての文化や歴史は強みではあるが、都市型農業のコミュニティを形成しやすい点も津島市の強みである。農業人口が減っている中、津島市には多世代の農業コミュニティがあるということは強みであると思う。それが農商工行政が連携するために、それぞれの強みをまとめる窓口が行政にあれば良い。

委員 : 策定委員会に市民代表として参加できたことに感謝している。津島市は住みやすく良い。コミュニティで活動しているが、人材の確保や予算などの問題もある中、関心がないということが一番つらい。当事者意識の欠如を何とかしたい。市民は絶対に津島市に対する愛情や思いやりは持っていると思う。そこをうまく引き出して行政と市民で津島市を良くしていくということが本当の協働ではないか。皆さんと一緒にまちづくりを頑張っていきたい。

- オブザーバー : 来年度も引き続き都市機能誘導区域や防災指針を策定するにあたり、防災指針は課題も多いが、来年も引き続きオブザーバーとして参加させていただきたい。
- オブザーバー : 一通り立地適正化計画が作成できたが、来年度以降、この計画をどのように実現していくかが大切である。緑のオープンスペースや都市緑化、公園といった点でこれからも津島市と共に考えていきたい。
- オブザーバー : 策定委員会に参加し、津島市のまちづくりの課題など大変勉強になった。一番気になる点として、都市機能誘導区域は津島市の都市のイメージとなる区域だと思う。その中の空き家についてはしっかりと対策、施策等を進めていただきたいと思う。
- 委員 : 非常に深い話をたくさん聞かせていただいたが、一つは策定した計画の実現のための手法や管理について、計画の策定に関わった人がその後の計画の実現まで関わるとその後の議論が発展しやすい。二つ目は、津島市民の関心について、例として挙げると、長久手市は新興住宅地が多くコミュニティが希薄なため、長久手文化の家を市民協働でプランニングし、市民が運営管理をするなど、このような施設がないとコミュニティ形成のきっかけがない。津島市は何もしなくてもコミュニティが形成されているため、そこに甘えているように思う。これから居住スタイルが変化していく中、新しいものに立ち向かっていくためにも市民協働をしながら市民が意識を醸成していく必要がある。どこかで学ぶ機会がないと難しいことだが、この計画がそのきっかけになって発展していけば良いと思う。
- 委員 : 立地適正化計画の58ページが肝であり、ここに書かれている施策を実現していくという意思表示だと考えている。津島市にとって大きな1歩になると思う。時代と共に都市も代替や更新が必要になってくるものであり、津島市も必ずまた元気になってくる。都市の歴史は発展と衰退の繰り返しで、これから発展をしていくステージになり得るし、その計画になると思っている。各事業者の協力もあり、津島市は絶対に良いまちになると言い切れるし、そこに期待したい。皆さんのおかげで本当に良い計画になったと思う。
- 事務局 : 職員の知恵と努力で計画を策定してきた。もっと日常を楽しくアクティブにイノベーションを起こしていく、という観点の中でエポックを大切にしていた。今後この計画を実行していくにあたり、この心を大切に大きな仲間の輪をつくって動き出していきたい。

以上